

ジャパリパークにつきちよう

エフジェイ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

キョウシュウを出て旅を続けるかばんとサーバル。そんな一行が旅先で見つけた本、それは「副園長」という誰かが書いた「日記」だった…。

7/29初回投稿、最新話は8にち セントラル・ナカベけいさつ 対大セルリアンです。

※日記風のけものフレンズ二次創作です。

時系列は大体アニメ終了後そこそこ経ったあたり。

※公式作品の設定はものよって採用したりしなかったりです。

オリフレは出ませんが公式で存在するフレンズのオリキャラはたくさん出ます。

ゆえに公式作品と性格とか強さとか背格好が違うフレンズもいます。

また、フレンズのIQが若干や高めかもしれないです。

※文法が怪しい・誤字がある等は作品の雰囲気作りの為です。…多分。

でも明らかにこれはタイプミスだろ、描写がおかしい、倫理に反すると思っただらお知らせください。訂正します。

※カクヨムにも投稿しています。文字数下限の都合上1000文字以下の話は1つに統合します。

日記の読み手はかばんとサーバルという設定ですが日記の書き主

はオリキャラという設定なのでオリ主タグにチェックを入れていま
す。

目次

1にち	副園長就任式	1
2にち	パトロールをした	3
3にち	マンガを読んだ	3
4にち	セントラルけいさつ対セルリアン	6
5にち	じゅぎょうの準備	8
6にち	ざつかやで買い物	10
7にち	じゅぎょう(カキクケコ)	13
8にち	セントラル・ナカベけいさつ対大セルリアン	16

1にち 副園長就任式

がつ1にち ようび てんき(晴れ) おんど

今日から日記を付けることにする。

今日は俺の誕生日祝いを兼ねた副園長就任式があった。

各エリアから大勢のフレンズ達が駆けつけてくれて俺の誕生日と俺がパークの副園長になったことを祝ってくれた。

式の計画と準備を手伝ってくれたラツキーたちと園長、セントラルをなわばりにしているフレンズたちにはとても感謝している。

色々あったが俺は今日から副園長になった。これからはフレンズがパークで生きることを楽しめるよう、悲しい目に合わないように頑張るつもりだ。

でもまあ就任式なんてものは建前でみんなで集まって大いに楽しんでくれたようだ。式の途中にはなんとPIPとコトドリがコンサートをしてくれるというサプライズまであり、当然大盛り上がりだった。

違うエリアから来たフレンズはあまり会えない子と一緒にセントラルを回って遊んでいたようでとても嬉しい。長い道のりを集まってもらったとはいえ、こういう機会を提供できたと思うと副園長になったのは正解だったのかもしれない。幸い今日はセルリアンも出なかったようだ。

また誕生日おめでとうとプレゼントをくれる子もいた。たくさんありすぎて全部は書けないが木の枝で作ったネックレスやとても大きいどんぐり、キレイな丸い石などだ。大量だったので式が終わったあとで複数回に分けてねぐらに運んで飾った。みんなのやさしい気持ちに囲まれてこれからは毎晩ぐっすり眠れるに違いない。

今日はたくさんのフレンズが来ていたので大鍋でたくさんカレーを作りサラダを添えてみた。もちろんこれも他のフレンズに手伝ってもらった。

料理を初めて食べる子も多くみんな喜んでいた。気に入ってもらえて俺も嬉しい。プレゼントのお返しになっただろうか？

そしてこのにつきちようは園長がくれた誕生日プレゼントだ。

これまで資料や書類を作ることはあったが日記を書くのはもちろん初めて。園長が言うに、あなたは文字を書くのがとても好きだからこれをプレゼントに選んだ、あなたが書いた日記がもしかしたら後々何かの資料になるかもしれないわとのことだ。

園長や他のフレンズにこれを見られるかもしれないと考えると少し恥ずかしいがこのにつきちようは貴重なものだ。昔の資料を解読してパークの事に役立っている身としてはこういう記録も後々訳に立つかもしれない。大切に日記を書いていきたい。

書き方はこんな感じでいいだろうか？ああ今日は本当に楽しかった。

2にち パトロールをした 3にち マンガを読んだ

がつ2にち ようび てんき(くもり) おんど

今日はセントラルの見回りをして一日を過ごした。

昨日の就任式に来てくれたフレンズの中には昨日のうちになわばりに帰っていった子もいたようだが、大抵は今日の夜明けとともに帰っていった。

この時に昨日話せなかった子とも話すことができ嬉しかった。あとすでに俺のことを副園長と呼んでくれるフレンズも何人かいて何か照れくさいようなさみしいような感じがした。

残る夜行性のフレンズは昨日に続きセントラルを散策したり、遺跡で寝ていたりしていたようだ。少し気持ちいい風が吹いていたので俺も少しお昼寝をしたかったのだがここは我慢だ。セルリアンはこういう時も現れる。

なので他のエリアの子との交流やセントラルの案内も兼ねて見回りをすることにした。俺の他にもミミヤヒトコブを含むセントラルの子たち、他のエリアの腕利きが何人か自主的に見回りをしてくれていたようで大変助かった。まあ昨日に引き続き夜行性の子たちが帰るまでセルリアンは出なかったらしいのだが。

…ちなみに見かけなかった園長だがフレンズにねぐらとして提供している遺跡の一つ『ホテル』でお昼寝をしていたそうだ。こういう時にぐっすり眠るのが良いんじゃない！と言っていたがうーん…。まあ昨日の準備で一番働いてもらったのは園長だし無理をするのは良くないからきちんと休んでもらえて良かったのだろう。

…俺も機会があったらねぐらではなくそこで寝てみようかな？

今日は昨日のカレーの残りとピンクのジャパリまんを食べた。やっぱりカレーは作ってしばらくたつとおいしい模様だ。

がつ3にち ようび てんき(雨) おんど

今日は図書館でマンガを読んで過ごした。

今日は明け方から夜までずっと雨だった。晴れだったらパトロールをしようと思っていたが起きたら雨が降っていたので図書館に行くことにした。

図書館には既に園長が来ていて資料の解読と次回のじゅぎょうの計画を立てているようだった。俺は就任式の前の日にやりのこした資料の解読の続きをしようと思っていたが、園長が大変そうなので勉強会の計画を立てるのを手伝うことにした。

じゅぎょうに来てくれるフレンズの一覧を見ながら次回どういう風に教えようか悩んでいると図書館にアライグマが来た。どうやらマンガを読みに来たらしい。

最初の内はじゅぎょうの事をしていたが、たびたびアライグマが副園長これはどう読むのだ、それはどういう意味なのだと聞きに来るのですっかりアライグマとの勉強会になってしまった。

アライグマはとても賢いフレンズだ。かなり若いフレンズなのに勉強の甲斐あって、もうひらがなとカタカナを読む事ができる。また、読んでいたマンガは送りがなが振られているものの漢字が使われており、聞く所によると漢字もいくつか読めるようになったらしい。パークは広いが漢字を読めるフレンズはそう多くない。じゅぎょうにも欠かさず出ているし知りたいことやりたいことを何でも覚えてしまいたいらしい性格のようだ。とても真面目だし努力家だ。将来は園長になりたいから頑張っているのだと意気込んでいたがアライグマならなれるかもしれない。

でもまあ苦手なこともあるらしく、野生解放がまだできないことを気にかけていたりおっちょこちょいなのを直したいと言っていた。野生解放は俺だってできるようになったのはかなり遅かったし、おっちょこちょいは俺の友達にアライグマ以上の子が昔いたよと言ったらそんなものなのか？と聞いてきたが、要するにけものによって得意なことが違うんだよといったら納得してくれた。

結局、じゅぎょうの計画は進まなかったが園長はアライグマと俺が楽しく過ごしていたのをみて満足したわと言ってくれた。図書館の

利用者と交流するのもパークの代表としての努めだ。何よりも楽しい。

今日はアライグマの持ってきてくれた緑のジャパリまんとなぐらの近くの店の遺跡にラッキーが置いてあった果物を食べた。園長が大好きな『バナナ』を手に入れられて良かった。

4にち セントラルけいさつ対セルリアン

がつ4にち ようび てんき(はれ) おんど

今日はセントラルけいさつでセルリアンを一匹退治した。

夜明け前にミミがねぐらに来た。何かと思ったたら、夜のパトロールをしていたら森林公園でセルリアンを見たというフレンズに会ったので急いで伝えに来たとのことだ。すぐに図書館に行き寝ぼけまなこの園長にけいさつが出た方が良いかと聞くと園長は数も分からなしいし念を入れて出動お願いねと言って図書館に避難スペースを作り始めた。

その後はオアシスでまどろんでいたヒトコブを見つけ、ジャパリバスで森林公園に急行。公園にいた青いラッキーに頼んで園内放送をしてもらい、出沒が想定される場所の近くにいるフレンズに図書館に避難してもらった後にセルリアン探しを開始した。

結局森林公園にいたセルリアンは赤色の中くらいのやつで1匹だけだった。いつも通りミミに上空からの探索と情報収集を頼みセルリアンを発見。セルリアンがいた場所には木が多かったので障害物が少ない広場にバスでうまく誘導をして俺が一撃で倒した。

複数セルリアンが潜んでいる可能性を考えて公園やその周辺を警戒したがセルリアンの姿は無し。聞き込みの結果食べられてしまったフレンズはいなかったようだ。お昼前に再び園内放送をお願いして避難警報を解除した。

毎度のことだがヒトコブがブーブー言っていた。いつも二人で倒しちゃうからつままない!と。でもヒトコブには悪いがセルリアンが昼間1匹出ただけならこれが一番安全で手取り早いのだ。どんなに優勢でもなるべくセルリアンに近づかないに越したことはない。

しかし俺もヒトコブのパワーと足の速さを遊ばせている状況はもったいないと常に思っている。逆を言えばセントラルけいさつはそんな実力者をぜいたくに控えに回し護衛と荷物持ちを頼めるほどの層が厚いエリアけいさつとも言えるが…。でも俺がヒトコブだったとしたらつまらないと思うのはもつともだ。セルリアンが1匹の

場合でもヒトコブのフレンズの技を存分に活かせる良い案が何か無いだろうか。

避難警報が解除された後はみんなで図書館に行って園長に成果の報告をした。まだ図書館には数人フレンズが残っていたがほとんどは避難警報の解除とともに図書館を後にしたようだった。そのまま図書館に残った子とお話をしたり作業をしても良かったのだが疲れていたのでねぐらに戻り少しお昼寝をすることにした。

お昼寝から起きた後はパトロールをしたが特に何もなかった。

今日は赤色のジャパリまんを4つ食べた。一応野生解放をしたのでサンドスターの補給は必要かなと思って少し多めに食べることにした。

あと一応セルリアン退治に関する俺の記録も日記に付けておく。

今回は中くらいの赤いセルリアン1匹を退治した。

野生解放してフレンズの武器を使ったがキングゴブラ達の力は借りなかった。

攻撃回数は1回。無くしてしまった武器は無い。

5にち じゅぎょうの準備

がつ5にち ようび てんき(はれ) おんど

今日は次回のじゅぎょうの準備をした。

起きてすぐに次回のじゅぎょうの事が気ばかりになったのですぐに図書館に向かう。園長は今日も資料の解読をしていた。今手を付けているのは何かの物語らしく、多少漢字は含まれているが解読に支障は無いとのことだ。シリーズ物らしく、パークのどこかに続きがあるかもしれないと期待していたが、この本はとある遺跡にポツンと置いてあったものを回収したから散逸してしまっているかもしれないとも言っていた。

次回のじゅぎょうは「カキクケコ」のカタカナとその応用例だ。じゅぎょうに使えるものが何か無いかと探しているとじゅぎょうに参加しているフレンズの一人リヨコウバトが図書館にやってきた。絵本を読みに来たらしい。リヨコウバトは俺に軽く会釈をすると絵本を探してきて読み始め、時々俺と会話をしながら分かる所だけ文字を拾って読んでいたようだ。

熱心に絵本を読んでいるので、なありヨコウバトはなんで文字が読めるようになりたいんだ?と聞くとリヨコウバトは、私パークガイドをしてみたいのですよと答えた。

リヨコウバトはパーク各地を旅するのが好きな子で各エリアの魅力的な場所をいっぱい知っているらしい。俺も資料探しや各地のフレンズに話を聞くためにしよつちゅうセントラルを出るのでパークの事を知っていると思っていたが、リヨコウバトの話聞く限りパークにはまだまだ知らない魅力的な場所があるようだ。そして文字が読み書きできるようになったら自分で『がいどぶつく』を作って、まずは鳥系のフレンズ相手にパークガイドを試してみたいと教えてくれた。俺はリヨコウバトのように大好きなことを伝えるために頑張れるのはとても素晴らしいことだと思う。

そんな会話をリヨコウバトとしながら次のじゅぎょうで使う資料作りは完了した。「カキクケコ」で始まるけものを描いたパネルだ。

リヨコウバトはそれを見て、わあすごい！次のじゅぎようが楽しみです、次はいつですか？と聞いてきた。次はまた天気が良かった日にするかなあとというと、できるだけ早めにお願ひしますねと言う。

俺はなんで早めがいいのか気になった。リヨコウバトの熱心さならゆつくりやつてもちゃんと文字を読み書きできるようになるだろう。

それを聞くとリヨコウバトは少し微笑みながら、だって早くしないとぜんぶ覚える前にセルリアンに食べられてしまつて後悔するかもしれないそんなもの、そう言った。

胸を打たれる言葉だつた。リヨコウバトは軽い冗談のつもりで言つたんだろうが、その通りだ。現にセルリアンに襲われて姿を消すフレンズは未だに絶えない。優しい子、頭のいい子、器用な子、セルリアンはそんなことお構いなしに皆食べてしまう。じゅぎように出ているフレンズで食べられてしまつた子はまだいないがそのうちに誰かなくなつてしまうこともあるかもしれない。

俺にできるのはそうなんつても最期に悔いが残らない素晴らしいじゅぎようを毎回心がけること、そしてそういう子が生まれないように副園長・けいさつの一員としてパークを守ることだ。

まあリヨコウバトはその後に、私のガイドを邪魔するセルリアンなんてぶつ飛ばしちやいますけどねと続けた。リヨコウバトは地元のエリアでは名が知れた腕利きでけいさつにならないかと持ちかけられたがガイドになりたかつたのと『ふだつきのわる』であることを理由に断つたとのことだ。『ふだつきのわる』というのが何かはよく分からないがリヨコウバトはやっぱり自分の夢を頑張つて追い続ける素晴らしい子であるというのには理解できた。

今日は図書館の設備を使ってポトフを作つてみんなで食べた。火を付けてもないのに鍋が煮えるのをいつも不思議に思うが、ラツキーの説明では俺には難しく理解できなかつた。まだまだパークには分からないことがいっぱいある。

6にち ざっかやで買い物

今日はざっかやで買い物をして、その後に武器の整備をした。

明け方、大きな雷があつてびっくりして飛び起きた。窓から外を見ると横殴りの雨でさらにびっくり。セントラルでここまでの雨が降ったのは久しぶりだ。そしてかなり寒い。そういえば雷が鳴る度に思い出すが、エミューの奴は大丈夫だろうか。流石にセントラルの近くにはいないと思うが。

当然ながらじゅぎようはご破算だ。今日やると言つても多分みんななら当たり前のように図書館に来るだろうが、こんな大雨で呼ぶなんてひどいことはできない。雨が過ぎるかどうかは分からないが明日か明後日にしよう。

またパトロールに出ることも考えたが、いくらなんでも無理だ。多分雨で流される。こういう時に備えて泳げると良いなと思うが今思つても仕方ない。パトロールは水棲のフレンズが陸に上がつて見回ってくれるのを祈る。園内放送で連絡することも考えたが、この雨音だと放送が届くとは思えないのでどっちにしる仕方がない。

仕方がないから今日はねどこでゆっくりしよう：最初はそう思つたが、そういえば最近ハシブトガラスのざっかやを訪ねていないことを思い出した。ハシブトガラスは旅に出てざっかやを留守にしていることもしょっちゅうだが、他にやることがないのでショッピング街をうろついてみる。

こういう時はねどこが広い遺跡の中で良かったと思う。雨や風があつても少し歩けば住んでいる他のフレンズに会えるし、近くの店の遺跡にはラッキーが食べ物やいろいろな物を置いていつてくれる。ハシブトガラスのようにおみせを開いているフレンズもいる。

ざっかやを覗くとハシブトガラスがいた。良かった。おはようと挨拶するとハシブトガラスは相変わらずのニヤニヤ顔でへへツと笑いながら、いらっしやい、さっちゃん副園長就任おめでとうございませと言った。

ハシブトガラスは『とれじゃーはんたー』を自称していて各地で宝

物を見つけては持ち帰りざつかやで売っている。ジャパリまんを使つて売買をするので買うだけでなくハシブトガラスに珍しいものを渡してじゃぱりまんに替える子もいるらしい。俺が誕生日プレゼントに貰ったものの中にもハシブトガラスから買ったものがいくつか混ざっている。就任式にいなかったのも案の定、遠くに出掛けていて参加できなかったかららしい。まったくもう。

品揃えをざつと見る。見たことがないものやきれいだったり、面白かったりするしようひんの中に興味深いものがあつた。

ライター。まだジャパリパークにヒトがいた時につくられた再現不可能な遺物の一つだ。指で端の所を押すと火がつく道具で、これは青く透明な容器のもので中に油が入っている。ライターを手を取つた俺を見てハシブトガラスはニヤニヤしながらやつぱりとつぶやいた。

火をおこす手段はたくさんあるが小さく持ち歩きできてすぐに付けられるのはこれとマッチだけだ。これはもちろん買いだ。珍しくなかなか落ちていない上に、セルリアン退治などで手取り早く火を付けたい場面がたびたびあるのでライターとマッチは見つけたら必ず手に入れるようにしている。ちゃんと火もついた。

値段はジャパリまん5個とのことだが、使い終わったらじゃぱりまん3個で引き取るよと言っていた。ライターは不思議な色の石でできているので人気が高いしようひんらしいが、火が怖い子が多いので火が付く状態だとみんな買わないらしい。まあきれいな石で素敵だが、俺は火がつくからこそ欲しいのにな……。ちなみに火がつかないライターは再びじゃぱりまん7個で売るとのこと。相変わらず上手なフレンズだ。

その後はハシブトガラスと旅のことについて話した。どここのエリアでこんなものを拾つたとか、どここの遺跡を探索していたらセルリアンに危うく食べられそうになったとか武勇伝は聞いていて飽きなかった。そんな話をしている間にもちらほらとお客さんがやってきて色々を買つていった。変わった性格でしたたかなハシブトガラスのざつかやだが、意外と繁盛してゐるらしい。

ざつかやを出た後はゆっくり武器の手入れをした。フレンズの武器はともかく、作った武器の中には何度も使ったことで欠けてしまったり、接着が弱くなってきたものもある。近々補修か新しく作らなければいけないかもしれない。最近少し忙しいがいずれ時間を作って武器を作る材料探しをしようと思う。

今日は青いジャパリまんと昨日のポトフの残りを温めてハシブトガラスと食べた。ハシブトガラスはジャパリまんもいいがやっぱり俺の作る料理はうまいっすねと褒めてくれた。ふふっ、やっぱり憎めないフレンズだ。園長たちもそうだが少し多めに作ると他のフレンズにおすそ分けできて良い。これからも続けよう。

そしてちよつと肌寒かったのもあるが今日のお風呂は最高だった。なんでお湯が何も無い所から湧いてくるのは未だに分からないがこれがあるおかげで毎日お風呂に入られる。：パークにはまだまだ俺や他のフレンズが知らない遺された仕掛けがあるのだろうか。

7にち じゅぎよう (カキケコ)

がつ7にち ようび てんき (くもり) おんど

今日はじゅぎようで「カキケコ」を教えた。

少し曇ってはいるが天気が悪いまではいかないので今日はお待ちかねのじゅぎよう開催だ。青いラッキーに園内広域放送でじゅぎように参加するフレンズは集まれーと放送してもらった。じゅぎように参加するフレンズの大半は覚えたい文字を習得するまでは大体セントラルのどこか、例えば『ホテル』や俺の住んでいるショッピング街なんかで一時的な生活をしているのだが、別のエリアから来る子も中にはいる。なのでじゅぎようの開催は夜明け頃に園内放送で知らせて、太陽が一番高い頃に始める事になっている。

放送をして図書館に行くと、もうアライグマとリョコウバトが来ていた。昨日大雨だったのでじゅぎようがあるなら今日ではないかと待ち構えていたそうだ。この二人はセントラルにいたので流石に行動が早い。自主勉強にもよく訪れるし近くに住んでいるんだろう。

あ、思い出した。昨日は幸いにもセルリアンは出なかったようだ。図書館に行く途中に海で会ったステラーカイギュウに聞いた情報によると、沿岸や沖は高波でとてもいられなかったので仲間とセントラルの中心部に避難していたらしいが、ドワーフサイレンとメキシコサラマンダーがはしゃぎ回ったりと水棲の子たちが結構うろうろしていたらしい。セルリアンが出たならけいさつか図書館に報告が来るので来てないなら平穩だったのだろう。

色々作業をしながらじゅぎようを始める時間を待つとちらほらフレンズがやってきた。各々復習をしたり他の子と一緒に文字を書いて遊んでいたようだ。かわいい。

そんな中、はじめてじゅぎように来たフレンズがいたので声をかけてみた。

アマゾンツリーボアという名前らしい。アンインエリアからやってきたヘビ系の子で、将来はけいさつになろうと思っっているらしく文字を覚えるためにじゅぎように来たとのことだ。アンインから来た

へビ系の子と聞いてピンときたがやっぱりキングゴブラの弟子の子だった。キングゴブラにはいつも力を貸してもらってるんだと言うとしようが副園長にですか、とびっくりしていたのでそうだと返した。

他のフレンズと協力したり技を借りて自分の力に替えるフレンズは多く、俺もその一人だ。キングゴブラがセルリアン退治の時に使う毒の力を時々もらって、武器に付けて攻撃している。こうすると俺の攻撃に加えてキングゴブラの攻撃も加わるらしく与えるダメージが全然違う。毒の力でセルリアンが溶けて潰れてしまうこともある程だ。せめてものお返しに料理を作ってあげるのだがいつかは何かちゃんと返したいと思っている。

アマゾンツリーボアはキングゴブラに特訓を付けてもらうだけではなく、過去のきろくを読むことでセルリアンとの戦い方を知ろうとしているらしい。そんな時にじゅぎょうのことを知って、就任式の後に暇をもらってセントラルに残りましたと言った。

とても嬉しかった。アマゾンツリーボアのように文字の読み書きを覚えていろいろなことを書いていろいろなことを読めば、今まで以上にさらに他のフレンズの良い所や強さをたくさん知れるはずだ。これまでもあったが最近は特にフレンズ同士で読み書きを教え合うのが流行っている。みんながお互いのことを深く知ればパークは安全になりもっと楽しくなる、俺はそう思っている。

今思うとキングゴブラも俺がじゅぎょうに関係していると知って任してくれたのかも知れない。なおさらお礼をしないと。

時間になったので園長とじゅぎょうを始めた。参加したフレンズは15人と今までで一番多かった。最初は少人数で始まったのにここまで来たと思うと誇らしい。

結論から言うると今日のじゅぎょうもうまく行ったと思う。「カキクケコ」で始まるもののパネルは文字を覚えるきっかけとしてはなかなか良いものだった。知っている子の名前が出てきて絶対に覚えて帰りたいと頑張るフレンズもいたし、最初の文字以外でわからない文字があった時は皆で互いに教えあっていた。

アマゾンツリーボアは知らない文字に初めは緊張していたが、「キ」の絵がキングゴブラだったのですぐに興味を持ってくれたようだ。よし。

あとアライグマは今もじゆぎょうを教わっている身ではあるものもはや教える方になっていくのかもしれない。文字を覚えるのももちろん頑張っているが、最近はず俺や園長の教え方を観察しているように見える。園長にこの事を話すと、園長は嬉しそうに手を叩いて、そうねアライグマはしばらくしたら教える側に回してもいいかもしれないわと言った。

今こそじゆぎょうは不定期で参加した順に関わらずみんなに同じ文字を教えているが、教える方のフレンズが増えれば準備が簡単になり定期的にじゆぎょうを開催できる。あと進行具合に合わせていくつかのじゆぎょうを別に進めることができるのでアマゾンツリーボアのように途中からじゆぎょうに興味を持った子にも最初から教えることができる…。あくまで理想だが、いつか叶えたいと思う。

今日はカレーを作ってみんなで食べた。少し辛くなってしまうたが、ジャパリまんと一緒に食べたら辛さも和らいだみたいでなかなかおいしかった。

8にち セントラル・ナカベけいさつ対大セルリアン

がつ8にち ようび てんき(晴れ) おんど

今日はナカベけいさつと協力してセルリアンを一匹?退治したのとサンカイ遠征の準備をした。

いつも通り夜明けと共に起きる。最近少し天気が悪かったが今日は雲ひとつない。早速図書館に向かおうとすると遠くでセキシヨクヤケイが鳴いていた。とても清々しい良い朝だ。

図書館に着くと園長はまだ寝ているようだったので、きのうおこなったじゆぎょうのきろくの続きを書く。参加した子はちゃんと教わったじゆぎょうの復習していて知ってる文字を読んで書けたし、初参加のアマゾンツリーボアは「カキクケコ」とニックネームの「アマボア」の四文字を覚えて帰った。次回も楽しみだ。

そんなことをしていると園長が起きてきた。俺、じゆぎょうのきろく書きましたよというと私も書いておくれ、今回も良い授業だったわねと言ってくれた。さらに園長は教える側の工夫も良かったが、教わる側のやる気はそれ以上だったと喜んでいた。俺も同じ意見だ。本当にみんな頑張っていて嬉しい。

その後、資料の解説をしようとする園長に近日中の遠征を頼まれた。行き先はサンカイエリア、砂漠の長老に以前頼んでおいた分の解説の結果をもらってきて欲しいとのこと。長老を尋ねるのは久しぶりでとても嬉しい。園長が誰かに同行を頼む?と聞いてきたので俺はしばらく悩んでアライグマを誘おうと思いますと答えた。

知ることが好きで読み書きもかなり得意なアライグマなら遠征を通してパーク最高の考古学者である長老から良い影響を受けそうなのと、長老の師匠がアライグマのフレンズだったので良好な関係を築けるのではと思ったからだ。しかも長老は前園長、長老の師匠は前々園長に就任していたフレンズだ。園長を目指す夢を持つアライグマに良い昔話をしてくれるに違いない。前回はまだ若いから遠征は大変だろうと思って候補から外したのだが、実力は前回の時点でも十分だったと思う。

他にはヒトコブを連れて行くことも考えたが、今回は保留にした。ヒトコブはサンカイの砂漠が大好きだが、けいさつが二人もいなくなるかとセントラルが手薄になってしまう。前回は遠征中にセルリアンが発生して大騒ぎだったらしい。ミミと園長がいたから大事には至らなかつたがやっぱりヒトコブの力は必要だろう。

それはともかく、俺はラツキーに頼んで園内放送でアライグマを呼んだ。1分もしない内に走ってきた。速い。サンカイへの遠征に同行してくれないかと聞くと分かったのだ！と二つ返事で了承してくれた。早い。正直深く悩むか断られるかと予想していたが、アライグマは俺が考える以上にアライグマだったようだ。

なんで？と聞くと流れる滝のような勢いで理由を話してくれたが、かいつまんで書くとセントラル生まれで他のエリアに行ったことがないこと、頭の良いフレンズに話を聞いてもつと頭がよくなりたいからというのが主な理由らしい。

話している最中は興奮しているせいかしつぽをフリフリ話していた。ああ、ものすごくかわいかった。

その後はアライグマに出発はいつにしようかと聞いたら今が良いのだと言われたので今日はやめて明日の夜明けに図書館で会おうかと言ったり、一応ジャパリまんを持っていききたい物をいくつか持つてくること、夜は早く寝ることを約束して別れた。なお去っていく途中にフレンズと2回もぶつかっていた…これが悩んでいるおつちよこちよいか。お互いにケガをしたりしていないだろうか。

その後は資料の解説をしていた。

しかしお昼前頃だろうか、ナカベエリアのれんらくやくであるショウジョウトキが図書館にやってきた。

内容はナカベけいさつより至急連絡。ナカベとセントラルの境あたりでセルリアンを発見。パークセントラルは避難警報発令とフレンズの避難を頼むとのことだった。食べられたフレンズは無し。また、少々大きいので可能ならセントラルけいさつに助けに来て欲しいらしい。

俺は全て了解だ、ナカベけいさつを助けに行くのでそう伝えてくれ

とシヨウジヨウトキにたくした。シヨウジヨウトキが急いで飛んでいくのを見送るとラツキーに頼んで該当地域の避難警報及びセントラルとナカベのフレンズにセルリアンを警戒するようにと放送。図書館に飛び込んだできたミミとヒトコブを連れてジャパリバスで急いでナカベエリアへ向かった。

ここからは少し詳しく書くことにする。なんか園長が一応記録として残すかも知れないから戦闘があった場合ちゃんと書いてちょうだいと言ったからだ。既にせんとうきろくの方に今日のことは分かりやすく残してあるのだが：園長が望むなら詳しく書いたほうが良いんだろう。前回の書き方だとまあわかりにくいかも知れない。ああ、これからの日記は長くなるかも…。

ナカベエリアとの境辺りでシヨウジヨウトキが待っていて案内を受けてナカベけいさつと合流した。エジプトガン・ハシビロコウ・ミシシッピーワニ。水辺が多いナカベでも素早く行動できる水鳥を主軸とし空から攻撃し、ミシシッピーワニのパワーでセルリアンを倒すけいさつだ。シヨウジヨウトキを見て一瞬構えたが俺たちが助けに来たと分かると安心したようで助かったと迎えてくれた。

リーダーのエジプトガンによると戦っているセルリアンは空を飛ぶ大きめの奴らしく弱点の石は体の下の攻撃し辛いにある。またハチのような形をしているとハシビロコウが言っていた。

しかし本来の飛行型セルリアンと違うのは蜂セルリアンは子分？のような丸い塊を4つ従えているという点。その子分を飛ばし自分の身を守りつつ、隙を見せると同時に子分と蜂セルリアンが襲いかかってくるので中々手が負えないらしい。しかも空を飛んでいて降りてこないでミシシッピーワニの力を借りることができず、安易に攻められないので勝負を決めかねてかなり時間が過ぎているとの事だ。エリアの土地柄に特化したナカベけいさつが手助けを求む時点で嫌な予感はしていたが、これは来てよかったと思った。

しかしこちらにも問題はあった。ナカベの湿地では俺とヒトコブの動きが制限されるといふ点だ。バスの屋根の上から遠距離攻撃ができる俺にそこまで支障はないが、近距離攻撃を得意とするヒトコブ

の場合は致命的だ。湿地に足を取られて動けなかったら真つ先に襲われるし、かといって俺と同じくバスの上で戦うのは小回りが効かなすぎる。蜂セルリアンを湿地から誘導しようにも近くの平地はセントラルエリアまで行かないとないのでかなり時間がかかり危険も増える。そしてこれだけのやり手に対して地面の攻撃役をミシシツピーワニだけに頼ってヒトコブを出さないというのは流石に難しいと思った。さてどうしようか。

みんなでああでもないこうでもないと言っていると突如ぎやーと大きな声が出た。セルリアンか？と思つて武器を構えると、ミミがショウジョウトキを抱きかかえて空を飛んでいた。

…かりごっこ。クールで寡黙、頭が良くでスラツと背が高く美しいフレンズのミミだが実は三度の飯よりかりごっこが好きだ。ひらがなもカタカナも読めてセントラルけいさつの一員とセントラルでは知らないフレンズはいない人気者だが、同時に「かりごっこの子」の異名を持つ。俺はやこうせいではないので知らないが、夜のセントラルはミミとそんなミミに挑むフレンズの戦場らしい。まあそれがパトロールにもなっているのだからとしては大助かりだが。

ちなみに後に分かったことだが、昨日の夜ミミはかりごっこで勝つていなかったらしく、少し不満だったらしい。そこへ蜂セルリアン退治が入り無防備の他のエリアでミミのことを知らず無防備に飛ぶショウジョウトキを見て手が出してしまったのだろう。

そんなマイペースなミミにエジプトガンとヒトコブは大笑いし、ハシビロコウとミシシツピーワニは困惑していた。しかし両けいさつの張りつめた緊張は解け、穏やかな雰囲気変わった。そしてミミのおかげで俺はいい案が思い浮かんだ。

作戦はこうした。

まずハシビロコウとエジプトガンに偵察と誘導を頼み、ジャパリバスの屋根に立った俺が待っている湿地の開けた場所に俺の方に向かう形で誘い込む。ハシビロコウは蜂セルリアンの子分の攻撃をひよいひよいと避け、エジプトガンは適度に反撃ながらうまく誘導してくれた。

指定の場所に着いたら反撃を受けないようにハシビロコウは左、エジプトガンは右に急に反転して、逃げてきた道を引き返す。蜂セルリアンは追いかけていたハシビロコウとエジプトガンを逃すまいと同じく反転し、そして計算通り俺に背を向ける格好となる。

ピーと合図の笛を鳴らし、俺は野生解放してキングゴブラの毒付きのフレンドの武器を蜂セルリアンの背中に叩き込んだ。命中し貫通。弱点の石さえとらえてはいないが、攻撃が貫通した蜂セルリアンの体は少しずつ溶けていく。もちろん笛の音を俺の攻撃の合図としておいたので俺の攻撃は味方には当たらない。指定の場所はバスから俺が攻撃した時安定して攻撃を当てられる最も遠い距離だ。

蜂セルリアンは背後からの奇襲に驚き、俺を確認すると優先順位を変えて襲いかかってきた。俺はそれをキングゴブラの毒を塗ったフレンドの武器三本とキングゴブラの毒を塗った作った武器一本で迎え撃つ。蜂セルリアンは4体？の子分を犠牲に俺の攻撃全てを受けきって距離を詰めてきた。もう目の前だ。

でもこれこそが狙い。蜂セルリアンは攻撃してきた俺のことしか見えていない。当然バスの近くの上空でヒトコブを抱えて飛んでいたミミなんて意識の外だった。ミミの手から離れ、すごい速度で落ちていくヒトコブのかかとおとしが守るものが無くなった蜂セルリアンを湿地に叩き落とす。そしてその落下地点では水の中に潜んでいたミシツピーワニが大口を開けて待っているというわけだ。

倒された蜂セルリアンのかけらがキラキラと宙を待っている。かかとおとしをしたヒトコブはいざという時の増援に駆けつけたエジプトガンに無事に空中でキャッチされ、地面に降りてきた。その後はセントラル・ナカベ警察ともに蜂セルリアンを倒せたことを喜び、お互いの活躍をほめ合った。作戦の内容を褒められたが、今回の強敵はお互いのけいさつの協力あってこそだったと思う。今回は湿地を知り尽くしているナカベけいさつにセントラルけいさつがうまく手を貸せた感じだ。そして、フレンドを抱えて飛ぶという発想を思いつかせてくれたミミにも感謝したい。

その後は図書館に一旦戻りセントラルエリアの避難警報を解除し

た。そして日没前、シヨウジヨウトキがナカベの安全も確保できた
知らせに来たので全ての避難警報を解除した。その時ミミを見つ
けたシヨウジヨウトキは一瞬ぎよつとした顔をしていたが、今度あつた
らまたかりごっこしまししようと笑い、ミミはにへらと笑っていた。

：ミミのこんな顔、初めて見た。

今日はピンク色のじゃぱりまんを5つ食べた。サンドスターをか
なり消費した気がする。今日は色々あつて疲れた。

今回は大きい蜂のようなセルリアン子分を連れた1匹を退治した。

野生解放してフレنزの武器を使い、キングゴブラ達の力を借り
た。結構量使った。

攻撃回数は5回。無くしてしまった武器は無いが、作った武器が一
つ壊れてしまった。

ああそうだ。蜂セルリアンと戦った時に使った笛だが、あれはパー
クの遺物でライターと同じ様な不思議な石でできているものだ。
ぎっかやでじゃぱりまん12個と交換した。またもう一つ持ってい
るがこちらは鉄でできていて自前で作った。